奄美市 WorkStyle Lab 調査研究事業
調査結果報告書

令和５年３月
奄美市　商工政策課

目次

1　はじめに　3

2　実施内容　4
2-1　本施設の持続可能な管理運営に関する調査研究　4
2-2　本施設を中心とした市内ワーケーション施設の利便性向上のための調査研究　4
2-3　キャッシュレス決済導入に向けた調査研究　4

3　コワーキングスペースの管理運営を行う事業者等へのアンケート　5
3-1　アンケートの目的　5
3-2　アンケートの対象　5
3-3　アンケートの調査期間　5
3-4　調査項目　5
3-5　調査結果　5
3-6　調査結果概要と考察　9
3-7　アンケート調査フォーム　10

4　有識者座談会　16
4-1 座談会の目的　16
4-2 座談会の出席者　16
4-3 座談会の日時と会場　17
4-4 座談会のトークテーマ　17
4-5 座談会回答と考察　17
4-6 当日の様子　19

5　本施設の管理運営の参考となる地域への現地視察　20
5-1 視察の目的　20
5-2 実施期間　20
5-3 視察先一覧　20
5-4 視察概要と考察　22

6　市内でのワーケーションに関する調査研究　35
6-1 実施目的　35
6-2 調査項目　35
6-3 調査結果概要と考察　35

7　キャッシュレス決済導入調査　40
7-1 実施目的　40
7-2 調査手法　40
7-3 調査結果概要と考察　40

8　今後の方向性　43
8-1 調査結果まとめ　43
8-2 今後の方向性･検討事項　44
(1)本施設の利用者層の再定義と利用者数向上のための企画の検討　44
(2)ワーケーションにおける他の地域との差別化　44
(3)キャッシュレス決済システム導入　44

１　はじめに

奄美市では、平成 27 年度に「フリーランスが最も働きやすい島化計画」を策定し、ＩＣＴを活用するフリーランス、小規模事業者等を対象に「多様な働き方」に対する各種支援を実施しており、今回の調査研究対象である「奄美市 WorkStyle Lab」（以下、本施設）は、同計画の「第２ステージ」で、自立したフリーランスのモデルケースの普及、共同作業体となるフリーランス同士のコミュニティ形成支援の拠点施設として位置付けており、令和３年７月にオープンした。

こうした中、本施設では、民間企業等のノウハウを活用し、サービスの向上、経費の節減を図ることを目的とした「指定管理者制度」を令和６年度から導入する予定としており、本調査は、コワーキングスペース等を備えている施設機能の特色を考慮しながら、本施設の利用者数、利便性向上の効果的な手法等についての調査を行い、本施設の持続可能な管理運営に役立てることを目的として行った。

２　実施内容

2-1　本施設の持続可能な管理運営に関する調査研究

本施設の持続可能な管理運営のため、コワーキングスペースの管理運営を行う事業者等へのアンケートによる管理運営手法調査、コワーキングスペースの管理運営に関する有識者による座談会の開催、本施設の管理運営の参考となりうる地域への現地視察を行った。

ア　本施設と類似する施設の管理運営手法調査と本施設に適した管理運営手法の検討
　・コワーキングスペースの管理運営を行う事業者等へのアンケート
　・コワーキングスペースの管理運営に関する有識者による座談会
イ　優れた管理運営等を実施している施設や団体等への視察
　・本施設の管理運営の参考となる地域への現地視察

2-2　本施設を中心とした市内ワーケーション施設の利便性向上のための調査研究

本施設を中心とした市内ワーケーション施設の利便性向上のため、市内のコワーキングスペース、宿泊施設等のワーケーションに資する施設に対してオンライン調査を行い、特に特徴的な施設に関しては現地にてヒアリング調査を行った。また、国、鹿児島県、その他近隣地域が行う施策等に関してはオンライン調査とヒアリング調査を行い、先進的な取り組みを行う地域に関しては現地調査を行った。

ア　市内コワーキングスペース等施設（民設）との連携による市内でのワーケーションに関する調査研究と効果的な方策についての検討
　・市内のワーケーションに資する施設に対しての調査
　・市内のワーケーションに資する特徴的な施設に対してのヒアリング調査
イ　国、鹿児島県、その他近隣地域　が行う施策等に関する調査
　・国、鹿児島県、その他近隣地域が行う施策等に関するヒアリング調査
　・ワーケーションに関して先進的な取り組みを行う地域の現地調査

2-3　キャッシュレス決済導入に向けた調査研究

本施設の利便性向上のため、現行の現金のみの施設使用料の支払い方法のキャッシュレス化を検討するにあたり、他のコワーキングスペース運営者へのキャッシュレス決済システムの導入状況に関するアンケート調査を行うとともに、複数のキャッシュレス決済システムの比較調査を行い、併せて本施設の管理運営を行うものに対し、現在の施設の支払い方法や、奄美市のキャッシュレス決済システムの利用状況などについてヒアリング調査を行った。

ア　キャッシュレス決済導入に関する利便性向上の調査
イ　複数のキャッシュレス決済システムの比較調査
ウ　本施設の管理運営を行う者へのヒアリング調査と　同施設に最適な決済システムの検討

３　コワーキングスペースの管理運営を行う事業者等へのアンケート

3-1　アンケートの目的

本施設の持続可能な管理運営の検討のため、他のコワーキングスペースの管理運営方法（設備、スタッフ配置、集客手法、イベントなど）について把握することを目的とする。

3-2　アンケートの対象

コワーキングスペースの管理運営を行う事業者等（株式会社 AnyWhere が運営するワークプレイスプラットフォーム「TeamPlace」に登録されているスペース運営者および、一般社団法人コワーキングスペース協会に登録されている運営者）

3-3　アンケートの調査期間

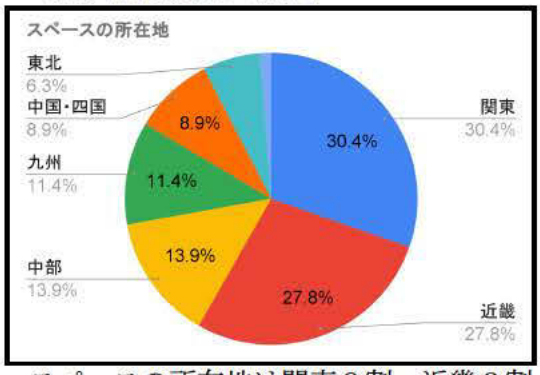
令和５年３月１０日（金）～令和５年３月２４日（金）

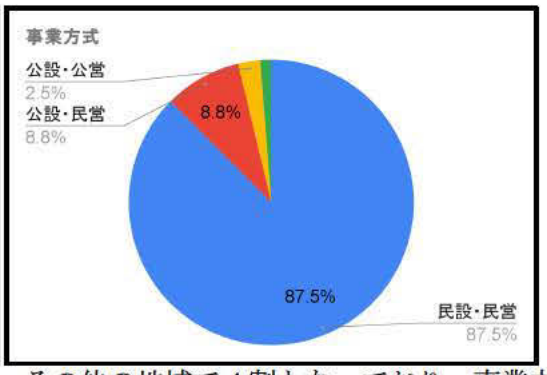
3-4　調査項目

○施設名（運営スペース名）
○所在地
○事業方式
○席数
○フォンブース数
○会議室数
○１日の平均利用者数
○会員数
○受付スタッフはいますか？
○コミュニティマネージャー等のコミュニティのハブとなるようなスタッフはいますか？
○集客にどのような手法を用いていますか？
○ＳＮＳは何を使っていますか？
○どのようなイベントを行っていますか？
○イベントの頻度
○１回のイベントにかかる費用
○スペースの運営の柱となっているのは以下のどれですか？
○運営で課題に感じていることは何ですか？

3-5　調査結果概要と考察（ｎ＝８０）

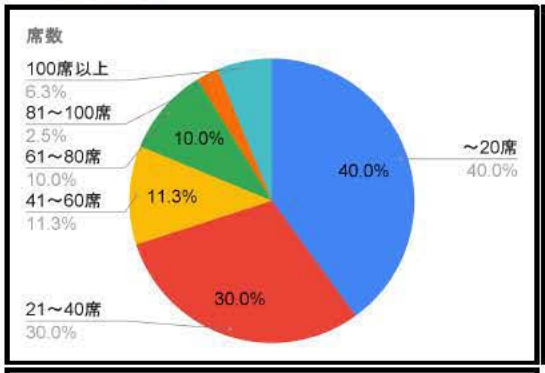
（１）回答施設の属性

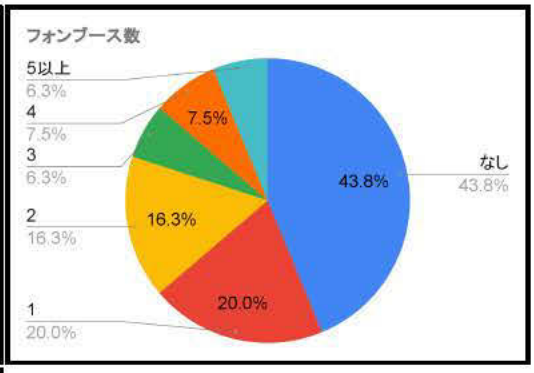


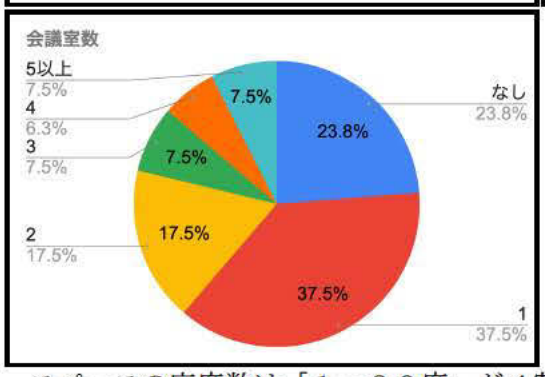


スペースの所在地は関東３割、近畿３割、その他の地域で４割となっており、事業方式は民設・民営が９割弱、公設・民営が１割弱、公設・公営は 0.25 割であった。
※「事業方式」のグラフの緑は指定管理として公益財団法人が運営しているケース

（２）設備

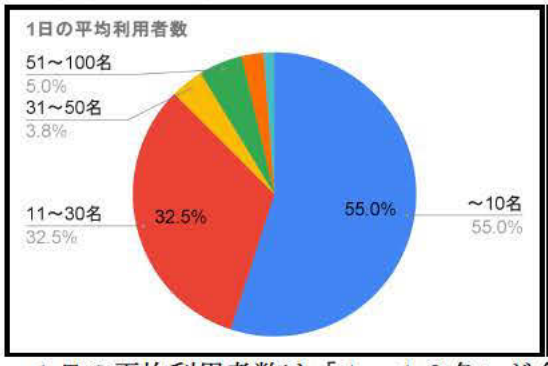


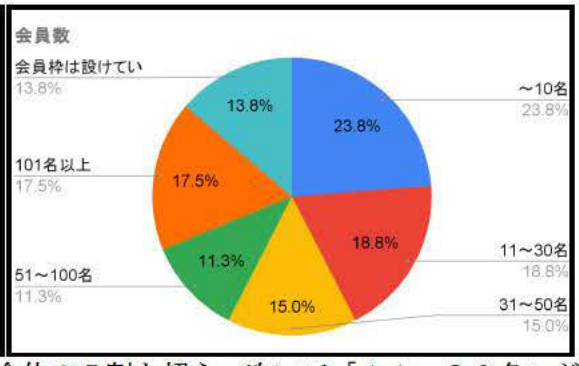




スペースの座席数は「１～２０席」が４割と最も多く、次いで「２１～４０席」が３割、４１席を超えるスペースは全体の３割であった。また、フォンブース数は、「なし」と回答したスペースが４割強、「１席」のスペースが２割、「２席」のスペースが２割弱で３席以上のスペースは全体の２割であった。会議室数に関しては「なし」と回答したスペースが２割強、「１室」のスペースが４割弱、「２室」のスペースが２割弱で３室以上のスペースは全体の２割程度であった。

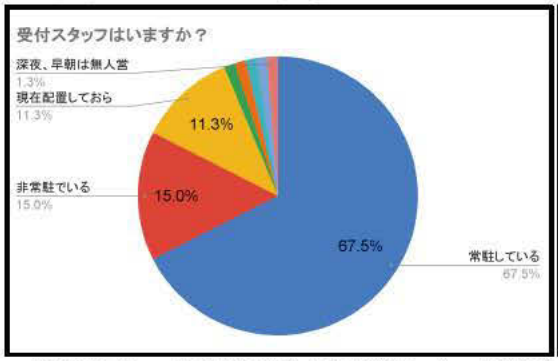
（３）利用者数

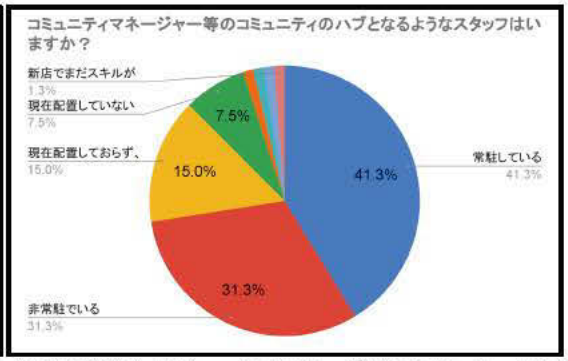




１日の平均利用者数は「１～１０名」が全体の５割を超え、次いで「１１～３０名」が３割強、３１名を超えるスペースは全体の１割弱であることがわかった。また、スペースの会員数は「１～１０名」が２割強、「１１～３０名」が２割弱、「３１～５０名」が１．５割、５１名を超えるスペースは全体の３割弱で、会員枠は設けていないスペースも全体の１割強あった。

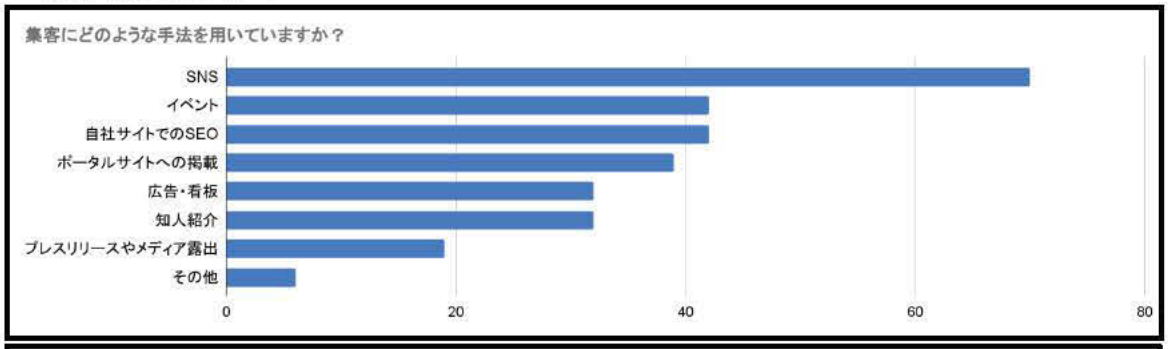
（4）スタッフの配置状況

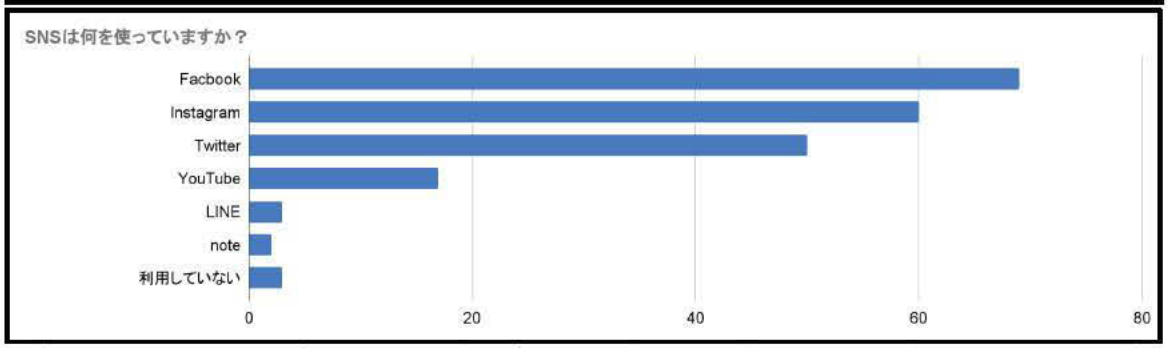




受付スタッフを配置しているスペースは全体の８割を超え、その内、常駐のスペースは７割弱、非常駐のスペースは1.５割であった。また、受付スタッフを配置していないスペースも全体の１割強あった。コミュニティマネージャー等のコミュニティのハブとなるようなスタッフを配置しているスペースは全体の７割を超え、その内、常駐のスペースは４割強、非常駐のスペースが３割強であった。また、コミュニティマネージャー等のコミュニティのハブとなるようなスタッフを配置していないスペースは全体の３割程度で、その内、今後も配置を検討していないスペースが1.５割、今後配置を検討しているスペースが１割弱であった。

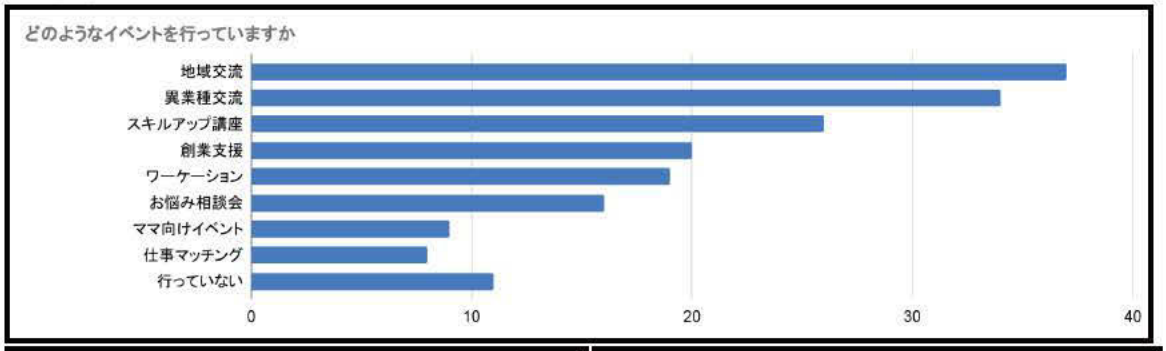
（5）集客について

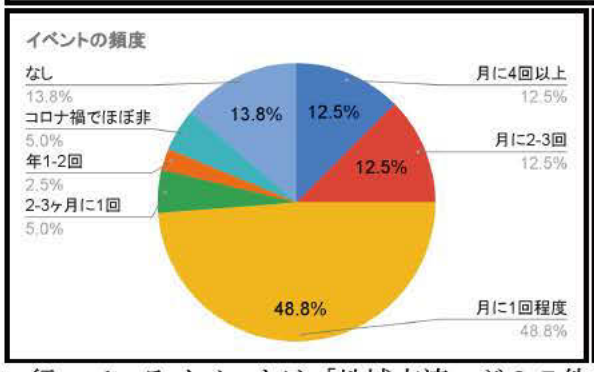


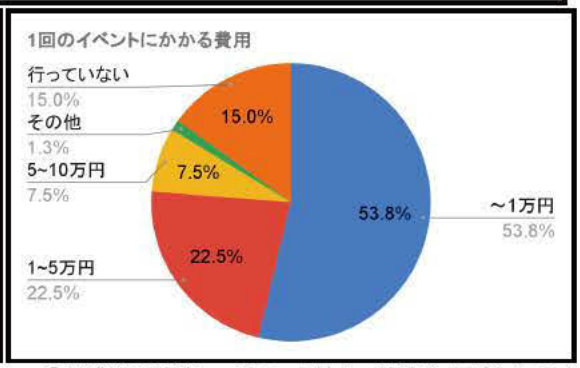


集客の手法としては「ＳＮＳ」が最も多く、回答数８０件のうち７１件がＳＮＳによる集客を実施していた。次いで「イベント」「自社サイトでのＳＥＯ」「ポータルサイトへの掲載」が多く、全体の半数程度が行っていると回答。その他の回答には「のぼり」や「ポスティング」などが挙げられた。使用しているＳＮＳは「Facebook」が７０件と最も多く、次いで「Instagram」が６１件、「Twitter」が５１件であった。

（6）イベントについて

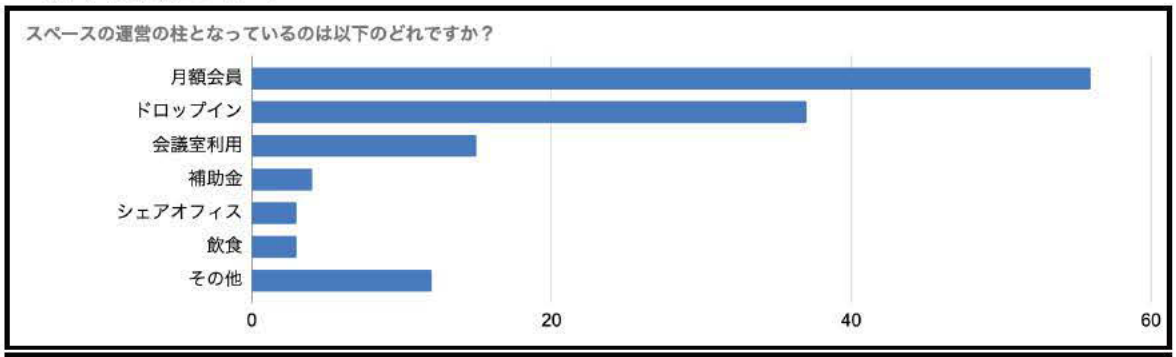


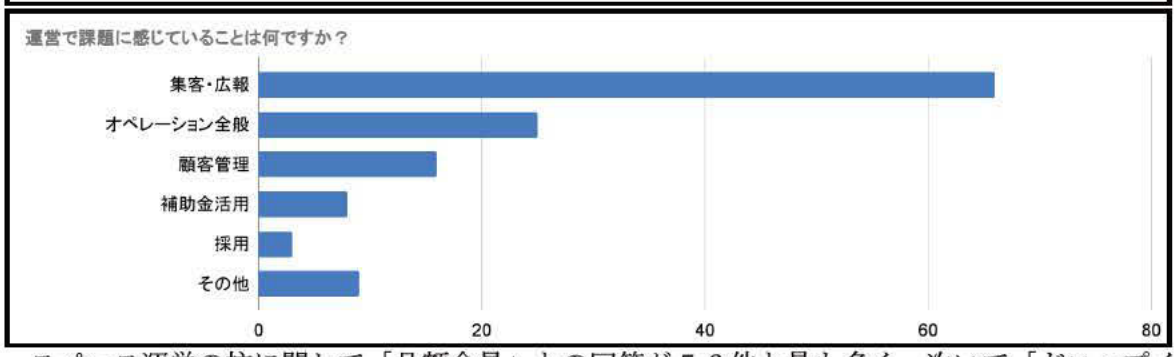




行っているイベントは「地域交流」が３７件、「異業種交流」が３４件と交流を目的としたものが多く、次いで「スキルアップ講座」が２６件、「創業支援」が２０件、「ワーケーション」が１９件であった。イベントの頻度は「月に１回程度」が約半数を占め、月に２回以上行っているスペースも全体の2.5割あった。逆に１回のイベントにかかる費用は「～１万円」の回答が５割を超え、どのスペースもイベントに費用はそれほど投じていないことが分かった。

（7）運営について





スペース運営の柱に関して「月額会員」との回答が５６件と最も多く、次いで「ドロップイン」が３７件だったことから、多くのスペースがコワーキング利用、とりわけ月額会員を収益源としていることが分かった。また運営で課題に感じていることは「集客・広報」が６６件と圧倒的に多く、次いで「オペレーション(※)全般」２２件、「顧客管理」１６件という結果であった。

※オペレーションとは、受付・接客・入退館管理・清掃など、スペース運営に係る実務全般を指す

3-6　調査結果概要と考察

今回行ったコワーキングスペース運営者に対するアンケートでは、スペースの席数は「２０席まで」が最も多く全体の４割を占めている事から、比較的小規模なスペースが多いことが分かった。また、フォンブースは「なし」が４割超と最も多く、会議室数は「１室」が４割程度、次いで「なし」が２割強であり、これらと比較すると、４１～６０席の席数があり、会議室２室と完全防音個室を備える「奄美市 WorkStyle Lab」は規模的にも設備的にも充実していることが伺えた。

また、アンケートによると１日の平均利用者数は「１～１０名」が全体の５割を超え、次いで「１１～３０名」が３割強、スペースの会員数は「１～１０名」が２割強、「１１～３０名」が２割弱、「３１～５０名」が1.5割であるのに対し、本施設の平均利用者数は「１～１０名」、会員数は「１～１０名」であることから、１日の平均利用者数、会員数ともに平均と同程度であることが分かった。

受付スタッフを配置しているスペースは常駐・非常駐を合わせると全体の８割を超え、コミュニティのハブとなるようなスタッフを配置しているスペースも常駐・非常駐を合わせると全体の７割を超えていたことから、ほとんどのスペースで本施設と同様にスペースやコミュニティ運営のためのスタッフを配置していることが分かった。

集客の手法としては「ＳＮＳ」「イベント」「自社サイトでのＳＥＯ」「ポータルサイトへの掲載」を全体の半数程度が行っていると回答。使用しているＳＮＳは本施設と同様「Facebook」「Instagram」「Twitter」を半数以上が利用していることが分かった。

行っているイベントは「地域交流」「異業種交流」などの交流を目的としたものが多く、これらはコワーキングの本質として「地域の交流拠点」としての価値や「交流による新たな事業や共創の創出」があることを示している。またイベントとして「ワーケーション」を行っているとの回答も１９件あり、本市は観光資源が豊富であることに加え、羽田空港・成田空港・伊丹空港・関西空港・福岡空港などの大都市（圏）からの直行便があることなどから、ワーケーション利用者にとって魅力的な土地であるため、ワーケーションを推進していくこともコワーキングの活用に有効であると考えられる。なお、１回のイベントにかかる費用は「～１万円」の回答が５割を超え、費用をかけずに行うイベントが主流である。

スペース運営の柱に関して、多くのスペースがコワーキング利用、とりわけ月額会員を収益源としていることが分かったが、本施設ではコワーキングスペースの収益以外の価値訴求を行っていくことが重要であると考えている。また運営で課題に感じていることは「集客・広報」が圧倒的に多く、本施設だけでなく、地域として、業界としてのコワーキングスペースの認知の拡大、利用者の獲得を促す取り組みが必要であると感じた。

3-7　アンケート調査フォーム

本アンケートはGoogleフォームを利用し、オンラインで回答を依頼した

コワーキングスペースの運営に関するアンケート

このアンケートは、コワーキングスペースの運営に関する調査・研究事業としてTeamPlaceを運営する株式会社AnyWhereと、一般社団法人コワーキングスペース協会、奄美市が連携して行なっています。アンケートにご回答いただいた施設様には、アンケート集計後にサマリーを共有いたしますので、ご協力いただけますと幸いです。

スペースの基本情報について

施設名（運営スペース名）*

回答を入力

所在地（□県○市）*

都道府県を跨いで複数拠点運営の方は、「複数」とご記載ください。同じ都道府県内で複数拠点運営の方は、「□県内で複数運営」のようにご記載ください。

回答を入力

事業方式*

- ○ 公設・民営
- ○ 公設・公営
- ○ 民設・民営
- ○ その他:

席数*

- ○ ～20席
- ○ 21～40席
- ○ 41～60席
- ○ 61～80席
- ○ 81～100席
- ○ 100席以上

フォンブース数 *

- なし
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5以上

会議室数 *

- なし
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5以上

1日の平均利用者数 *

- ～10名
- 11～30名
- 31～50名
- 51～100名
- 101名以上
- その他:

会員数 *

月額会員や年会員など、会員として登録されている方の数

- 会員枠は設けていない
- ～10名
- 11～30名
- 31～50名
- 51～100名
- 101名以上
- その他:

戻る　次へ　フォームをクリア

スタッフについて

受付スタッフはいますか？ *

- ○ 常駐している
- ○ 非常駐でいる
- ○ 現在配置していないが、今後配置を検討している
- ○ 現在配置しておらず、今後も検討していない
- ○ その他: _____

コミュニティマネージャー等のコミュニティのハブとなるようなスタッフはいますか？ *

- ○ 常駐している
- ○ 非常駐でいる
- ○ 現在配置していないが、今後配置を検討している
- ○ 現在配置しておらず、今後も検討していない
- ○ その他: _____

戻る　次へ　フォームをクリア

集客について

集客にどのような手法を用いていますか？ *
複数選択可

- ☐ 広告・看板
- ☐ SNS
- ☐ イベント
- ☐ プレスリリースやメディア露出
- ☐ ポータルサイトへの掲載
- ☐ 自社サイトでのSEO
- ☐ 知人紹介
- ☐ その他: _____

SNSは何を使っていますか？ *
複数選択可

- ☐ Facbook
- ☐ Twitter
- ☐ Instagram
- ☐ YouTube
- ☐ その他: _____

戻る　次へ　フォームをクリア

イベントについて

どのようなイベントを行っていますか *
複数選択可

- [ ] 異業種交流
- [ ] 地域交流
- [ ] お悩み相談会
- [ ] 仕事マッチング
- [ ] 創業支援
- [ ] スキルアップ講座
- [ ] ワーケーション
- [ ] ママ向けイベント
- [ ] その他: _____

イベントの頻度 *

- ○ 月に1回程度
- ○ 月に2-3回
- ○ 月に4回以上
- ○ その他: _____

1回のイベントにかかる費用 *
※スペース側の運営にかかる費用についてお伺いします

- ○ ～1万円
- ○ 1~5万円
- ○ 5~10万円
- ○ 10~20万円
- ○ 20~30万円
- ○ 30万円以上
- ○ その他: _____

戻る　次へ　　フォームをクリア

運営について

スペースの運営の柱となっているのは以下のどれですか？ *
複数選択可

- [ ] 月額会員
- [ ] ドロップイン
- [ ] 会議室利用
- [ ] 飲食
- [ ] 補助金
- [ ] その他:

運営で課題に感じていることは何ですか？ *
複数選択可

- [ ] 集客・広報
- [ ] 採用
- [ ] 補助金活用
- [ ] 顧客管理
- [ ] オペレーション全般
- [ ] その他:

戻る　次へ　フォームをクリア

最後に

個人情報の取り扱いについて *

（1）個人情報の利用目的について
奄美市のコワーキングスペース調査事業を受託、運営する株式会社AnyWhere（以下「AnyWhere」といいます）、一般社団法人コワーキングスペース協会（以下「コワーキングスペース協会」といいます）、奄美市は、ご記入いただいたお客様個人に関わる情報（以下「個人情報等」といいます）は、受託事業の運営、お客様への各種情報のご提供のために利用させていただき、お客様の承諾なく、他の目的には利用いたしません。

（2）個人情報の第三者提供について
AnyWhere、コワーキングスペース協会、奄美市は、お預かりした個人情報等を以下のいずれかに該当する場合を除き、第三者へ提供、取り扱いを委託することはありません。
①お客様の事前の承諾を得た場合
②業務委託会社に対して、お客様に明示した利用目的の達成のために必要な範囲で個人情報等の取扱いを委託する場合
③法令の定めにより提供を求められた場合

（3）個人情報の開示等について
① AnyWhere、コワーキングスペース協会、奄美市は、個人情報等の開示、変更、削除の求めがあった場合には、お客様ご本人（未成年者の場合はその保護者）であることをご確認させていただいたうえで、すみやかに対応いたします。
②アンケートご記入内容の公開について
アンケートの内容は、当団体HPや本事業の報告書、本アンケートにご協力いただいた施設様への配布に使用させていただきます。個人やスペースが特定されないよう、名称等のスペースを特定できる情報は記載しません。

◯ 同意する

アンケートのサマリーをご希望の方は、送付先のアドレスをご記入ください

回答を入力

戻る　次へ　フォームをクリア

4　有識者座談会

4-1　座談会の目的

本施設の利便性向上と、奄美市へのワーケーション利用者の誘致のための調査として、以下の取り組みについて実際の施設の運営者や施設運営に関する有識者を交えた意見交換を行い、知見を得ることを目的とする。

○本施設の利便性向上
- ・コワーキングスペースの管理運営
- ・コワーキングスペースの集客・認知拡大

○奄美市へのワーケーション利用者の誘致
- ・ワーケーションの実態
- ・ワーケーションの取り組み

4-2　座談会の出席者　※出席者の資料は TeamPlace より引用

一般社団法人コワーキングスペース協会 代表理事　星野 邦敏

IT事業と不動産運営事業を行う株式会社コミュニティコム代表取締役。埼玉県さいたま市の大宮駅近くで2012年からコワーキングスペース7F（ナナエフ）・シェアオフィス6F（ロクエフ）・貸会議室6F（ロクエフ）を約9年にわたり運営。

（株）AnyWhere代表取締役　斉藤 晴久

全国700以上のコワーキングスペースのプラットフォーム「TeamPlace」、企業型ワーケーションプラットフォーム「コワーケーション.com」を運営。コワーキングフォーラム関西、シェアリングシティカレッジなどの登壇歴を持つ。

コワーキング&コミュニティスペース COCOTOMO（群馬県桐生市）
運営　星野 麻実

NPO法人キッズバレイ代表理事として、子どもたちに向けて体験学習プログラムを提供するほか、創業支援にも力を入れ、数々の学びの場を創出。行政と連携した地域課題の解決に取り組んでいる。

ふるさと交流館芦田宿（長野県立科町）運営　上前 知洋（立科町職員）

立科ワークトリップの立ち上げや、社会福祉型テレワーク事業や学生によるアイデアソン事業、移住促進事業、関係人口の創出事業などを担当。観光庁「新たな旅のスタイル促進事業」アドバイザー。生涯活躍のまちアドバイザー。

WorkStyle Lab Inno管理者　麓 卑弥呼

しーまブログ編集長。株式会社しーまでシマ・ヒト・モノ・コトをつなぐ仕事を推進。
WorkStyle Lab Innoの運営者の立場から実際の現場の声をいただく。

篠原智美

（AnyWhere　/　ランサーズ　/　キッズバレイ理事）

4-3　座談会の日時と会場

日時：令和５年２月１０日（金）１４時～１６時
会場：SpatialChat※　（オンライン）
※２次元のメタバース空間

4-4　座談会のトークテーマ

1. 施設の管理運営（設備・システムなど）
2. イベントや広告などのプロモーション戦略
3. ワーケーションの取り組み

4-5 座談会回答と考察

4-5-1 施設の管理運営（設備・システムなど）

【ＣＯＣＯＴＯＭＯの事例】
○施設の管理システムについて
・予約申し込みツール：SelectType
・会計管理：Air レジ
○顧客データ、属性の取り方
・お名前、電話番号、勤務先等を記入いただき、手書きで会員カードを発行、ＰＣに情報入力して管理
○シェアキッチンの導入・活用について
・今までＣＯＣＯＴＯＭＯと運営母体であるキッズバレイの事業を切り離していたが、それらを一体化していくにあたり、チャレンジキッチンとして活用（使っていない時間（夜）はこども食堂として利用を想定）
○メンテナンスや改修
・最初は商店街と連名で経産省の補助金利用して改修
・その後はコロナ対策の交付金（関係人口創出の拠点という運営母体の自主事業に対する桐生市からの補助金として）で改修
○コミュニティマネージャーのニーズに関して
・ＣＯＣＯＴＯＭＯの運営は運営母体であるキッズバレイの事業の傍らでスタッフ業を行っている
・電話相談、創業支援、子育て支援、ユースセンターの担当者が、仕事をしつつ受けつけをしていることでコミュニティマネージャー的に機能している
○地域への貢献価値・収益構造（一般論的な考え）
・桐生市がＣＯＣＯＴＯＭＯの入っている東武ビルを創業支援の拠点としていきたいと考える中で、スモールビジネス（何か始めたい）人に対し、ＣＯＣＯＴＯＭＯの運営母体であるキッズバレイが支援し、それ以上の創業部分に商工会がサポート、キッズバレイが行政にとって予算をつけづらい部分に関して動くという棲み分けを行っている

【７Ｆ（ナナエフ）の事例】
○施設の管理システムについて
・無人ロックを１人用のＷＥＢ会議ルームに使い、予約、入退室、決済まで一元化
○顧客データ、属性の取り方
・紙の契約書と Google フォームで申し込み
・面談でヒアリングも実施
○シェアキッチンの導入・活用について
・商店街の空き店舗活用として行っているので、コワーキングとの親和性は求めていないが、現在４０人が４店舗を使っており、街の活性化やパークＰＦＩ（ＰＦＩ事業）で活用されやすい特徴もあるので、業界としてこれから伸びるだろうと考えている
○コミュニティマネージャーのニーズに関して
・地方都市では人がいないと難しい、地方に無人の場所を作っても使われず、また人がいないと差別化ができない

・周辺地域で何かやりたいと思った時に相談できる人がいた方が良い
○地域への貢献価値・収益構造（一般論的な考え）
・特定創業支援等事業の認定を受けており、地域で起業する人が７Ｆ（ナナエフ）を使うと金利等の優遇措置が受けられる

4-5-2　イベントや広告などのプロモーション戦略

【AnyWhere の知見】
○コワーキングスペースの集客
・多くのスペースはポータルサイトへの掲載を用いて集客を行っている
○ＳＮＳなどの利活用
・LINE など、既に周知されているツールを使って会員とのやり取りをしている場所が多い
○その他行っているプロモーション
・デジタルノマドのコミュニティの滞在先として名乗りを上げるなども有効であると考える

【ＣＯＣＯＴＯＭＯの事例】
○コワーキングスペースの集客
・東武鉄道のビルなので、電車の広告の枠を利用
・学生利用は口コミ（学生格安のため）が多い
・学生のいる場所（図書館）などにポスターを掲載
・NETSUGEN アライアンス（群馬県内のコワーキング施設において、会員が双方の施設を利用することができる施設間提携サービス）による相互送客
・学生のいる場所（図書館）などにポスターを掲載
○利用促進のためのイベントの開催
・学生向けのワークショップを開催

【７Ｆ（ナナエフ）の事例】
○コワーキングスペースの集客
・Facebook、Instagram などのＳＮＳ
・電車のホームの看板は費用対効果が良いらしい（奄美だとバス、空港、レンタカー）
・チャットワーク、Facebook のクローズドコミュニティ
○利用促進のためのイベントの開催
・コロナ前は定期イベント（子供向けのプログラミング教室、ＨＰの作り方講座などを毎月）＋周年イベントなどの単発イベントを行っていた

4-5-3　ワーケーションの取り組み

○親子ワーケーション事例紹介（ＣＯＣＯＴＯＭＯ）
・背景としては「コワーキングスペース＋保育士＋子どもへのプログラム」で親子向けのワーケーションとしてグローケーションを開催
・桐生は産業はあるが、絶対的な強みはないので生活に溶け込むワーケーションを企画
・最初は長めの日程設定だったが、金額設定として難しいので、次回からは日程を短くして検討している
・ファミリー層だと単価が高くなる懸念あり
・現在、大人向けのＳＤＧｓに興味のある層に研修プログラムを作ろうとして醸成中
・ランドオペレーター（旅行サービス手配業の１つで、旅行会社から依頼を受け、運送手段や宿泊地の手配・予約を行う企業）ではないので、宿泊はお客様自身に予約してもらう
○企業型ワーケーション事例紹介（立科町）
・企業の開発合宿、オフサイトミーティング（職場外でのミーティング）、チームビルディング（社員のスキルや能力、経験を最大限に発揮し、目標を達成できるチームを作り上げていくための研修やワークショップ）、ワーケーションを想定して事業を開始
・白樺高原エリアにあるホテルやペンションに仕事ができる機材と環境を用意して利用してもらう

・企業の上司の決裁（出張扱い）を取りやすいよう、「ワークマシマシ成果ガッツリ」の仕事メインのコンテンツ（アクティビティ少なめ）
・専任のコンシェルジュに、工程の検討から宿泊場所の提案、ワークスペースの備品の手配などの業務を全て委託
・利用企業に対し補助金や助成金は出していない
〇海外のワーケーション事例紹介（AnyWhere：インドネシア　バリ島の事例）
・リゾートとして有名ですが、実はデジタルノマド（IT 技術を活用し、場所に縛られず、「ノマド（遊牧民）」のように旅をしながら仕事をする人達のこと）のメッカでもあり、コワーキングスペースや、シェアハウスとコワーキングスペースの特徴を併せ持つコリビングスペースがたくさん点在している
・利用者はほぼ島外の人で、長期滞在しながらワーケーション的に仕事をしている

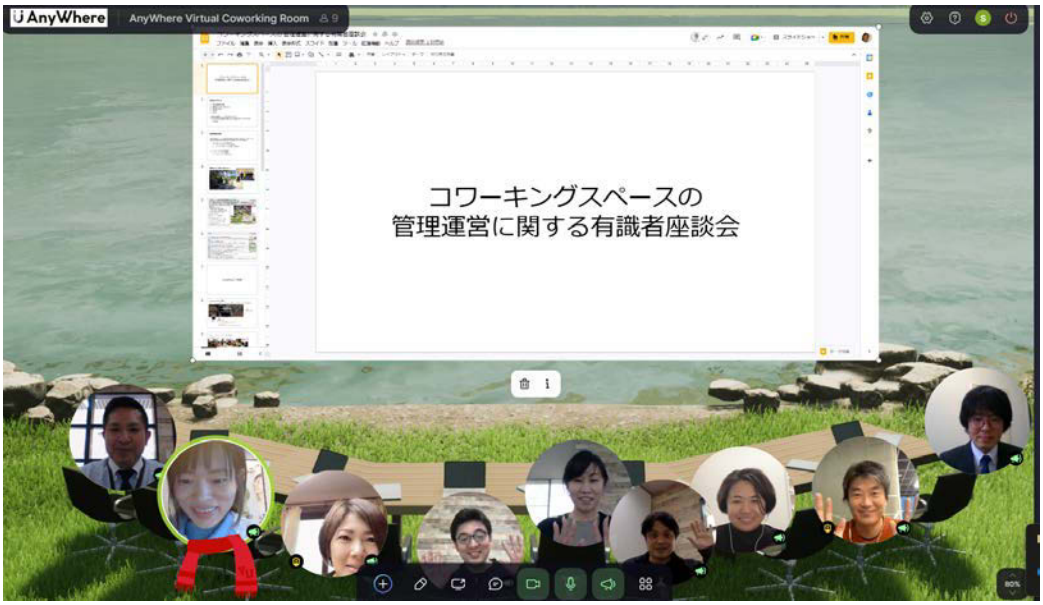
考察

施設の管理運営に関して、顧客データの処理等は未だアナログで行っているスペースも多いが、入退室などの施設管理の分野に関してはシステム化も普及してきた。しかしながら、本施設が公設であることも踏まえ、個人情報の流出等の危険性を考慮した上でのシステム化となると多額の費用がかかることが想定される。また、コミュニティマネージャーのニーズに関しては、地方のコワーキングスペースは人と人のつながりが重要であるとの見解から配置が必要とされており、引き続き本施設においても、市内の人や仕事、イベントやプロジェクトをつなぐ役割として必要であると言える。シェアキッチンに関しては、コワーキング利用者以外へと利用者層を広げ、本施設の利用者数向上の施策としてイベントやチャレンジショップとして有効に活用していく必要性が感じられた。

プロモーションに関しては、前述のアンケート結果にもあった通り、ＳＮＳやポータルサイトへの掲載、イベント（講座やワークショップなど）の開催は有効であり、また奄美大島内においては交通機関の選択肢が多くないことから、広告や看板等を空港ターミナルやレンタカーの営業所バスの車内広告等に配置することも有効であると考えられる。

ワーケーションに関しては、コワーキング運営者の持つ資源や特徴を活かして実施されることが多く、今回は子育てや教育に関して知見を持つＣＯＣＯＴＯＭＯの運営母体であるキッズバレイによる親子ワーケーション「GROWCATION」と、立地や予算、自治体事業という観点から業務型・合宿型の実施形態を選択した立科町の「立科 WORKTRIP」について、その実施の背景や現状についての知見を得た。本市においては観光資源が豊富であることや自然が豊かであることから、余暇主体（休暇型）のワーケーションが向いているのではないかと考えられる。

4-6　当日の様子



５　本施設の管理運営の参考となる地域への現地視察

5-1　視察の目的

本施設の管理運営の参考となりうる地域として、都心からの距離や観光地としての需要が奄美市と類似している、移住やワーケーションに関して先進的かつ有効な取り組みを行っている、フリーランスが中心となった取り組みが活発であるという観点から、長崎エリアと長野エリアを選定、本施設の持続可能な管理運営の参考となる知見を得ることを目的とし、視察を行った。

5-2　実施期間

長崎エリア：令和５年１月１７日（火）～令和５年１月１９日（木）
長野エリア：令和５年３月１７日（金）～令和５年３月１９日（日）

5-3　視察先一覧

長崎エリア

No.	視察先	住所	URL	概要
①	ｋｎｉｔ．（ニット）	長崎県　五島市　中央町6-35	https://team-place.com/space/328	ゲストハウス併設、シェアキッチンあり、移住・物件活用等の相談ができるコワーキングスペース
②	ＳＥＲＥＮＤＩＰ　ＨＯＴＥＬ ＧＯＴＯ（セレンディップホテル五島）	長崎県　五島市　武家屋敷1-7-12	https://team-place.com/space/947	ワーケーションを推進しているホテル。１階のＣＡＦＥ兼コワーキングスペースは地元の方にもひらかれ、リモートワーカーから勉強をする地元の高校生までさまざまな方が利用
③	ＳＰＡＣＥＬｏｎｇＡｒｍｓ（スペースロングアームス）	長崎県　五島市　長手町137	https://team-place.com/space/942	東京と二拠点生活をする方が運営している、漁協の建物をリノベーションしたコワーキングスペース
④	Ｓｏｒｒｉｓｏ ｒｉｓｏ　千綿第三瀬戸米倉庫（ソリッソ リッソ千綿第三瀬戸米倉庫）	長崎県　東彼杵郡　東彼杵町　瀬戸郷1303-1	https://team-place.com/space/590	地域人材可視化や創業支援などを手がける公社が運営する、元農協米倉庫をリノベーションした交流拠点
⑤	ｃｏｔｏ（コト）	長崎県　大村市　本町444	https://team-place.com/space/936	長崎・大村湾のひとことものをつなぐコワーキングスペース

長野エリア

No.	場所	住所	URL	memo
①	Ｇｏｋａｌａｂ．（ゴカラボ）	長野県北佐久郡御代田町草越1207-23	https://gokalab.jp/	教育移住が多い御代田地区の農協をリノベーションしたコワーキングスペース、地域の共創事例多数
②	ワークテラス佐久	長野県佐久市中込2336-1	https://www.3saku.com/	移住者やフリーランスの多い佐久地域の情報センターをリノベーションしたコワーキングスペース、地域の共創事例多数
③	ＴＥＲＭＩＮＡＬ　５１°（ターミナル　ゴーイチ）	長野県長野市高田　五分一420	https://cf-shinshu.jp/project/detail/990	紙問屋の築５０年の事務所をリノベーションしたコワーキングスペース、ライブラリー・工作室・フォンブース・ラウンジ・シェアキッチンなどの機能を備えている
④	ＣＲＥＥＫＳ（クリークス）	長野県長野市南長野町並1583-2F	https://team-place.com/space/19	長野市で１０年以上前に開設した貴金属店のビルをリノベーションした老舗のコワーキングスペース
⑤	いいづなコネクトWEST	長野県上水内郡飯綱町大字川上1535	https://iizuna.jp/iicone-west/	閉校となった小学校を改修した複合施設、食堂、サッカーグラウンド、ランドリー、フィットネスジム、コワーキングスペースなどがある
⑥	いいづなコネクトEAST	長野県上水内郡飯綱町赤塩2489	https://iizuna.jp/iicone-east/	閉校となった小学校を改修した複合施設、カフェやシードルの醸造所、コワーキングスペースや会議室などがある
⑦	ふるさと交流館芦田宿	長野県北佐久郡立科町芦田2602-1	https://team-place.com/space/655	テレワークセンターや移住サポートの機能も備える立科町が運営する地域の交流拠点
⑧	いこいヴィラ	長野県北佐久郡軽井沢町長倉3391-3	https://villa.ikoisanso.co.jp/coworking/	地元や県外、宿泊のお客様まで色々な目的を持って集まった方々と交流し、新しい価値を生み出してゆくホテル一階にあるコワーキングスペース
⑨	軽井沢プリンスザ　ワーケーションコア	長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢	https://www.karuizawa-pwc.jp/	西武グループと、サテライト型シェアオフィス事業「H'T」を展開する野村不動産、シェアオフィス事業「STATION WORK」を展開する　ＪＲ東日本の３社が展開するワーケーション施設

5-4　視察概要と考察

長崎エリア①：ｋｎｉｔ．（ニット）　※写真はTeamPlace掲載ページ(https://team-place.com/space/328)より引用

担当者	斉藤 慧　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	2時間500円 ※平日はカフェ利用で利用料無料
	会員	フリー席：6,000円 / 月 個室：45,000円～ / 月
席数	～20席	
設備・サービス	会議室、シェアキッチン、貸切、登記	
特徴	ワーケーションにおすすめ、移住相談ができる	

【開設の経緯】

コロナ前からインバウンド狙いで検討しており、運営者である斉藤さんが母親の手伝いで五島に移住したことをきっかけに、補助金等を活用して元毛糸店を改修して開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・シェアキッチン（チャレンジキッチン）
・レンタルスペース
・空き家相談室
・ADDress（定額で全国の拠点で二拠点生活・多拠点生活が始められるサービス）用の部屋
・カフェ

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・企業の合宿
・地元コミュニティの集まり

【集客手法】
・ＳＮＳ
・市役所が行うワーケーション推進イベント

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・商店街の中心にあり、シェアキッチンも併設されているため人との出会いが多い
・２４時間利用可能なプライベートオフィスが２階エリアにあり、長期滞在が可能
・運営者が不動産の仕事をしていることもあって移住や物件の相談ができる

長崎エリア②：ＳＥＲＥＮＤＩＰ　ＨＯＴＥＬ　ＧＯＴＯ（セレンディップホテル五島）　※写真は TeamPlace 掲載ページ(https://team-place.com/space/947)より引用

担当者	岡本 佳峰　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	無料 ※カフェでのワンオーダーが必要
	会員	なし
席数	21～40席	
設備・サービス	会議室、キッズスペース、貸切、登記	
特徴	ホテル併設、ワーケーションにおすすめ、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　地元の人の雇用を作りたい、地元と観光客との交拠点を作りたい、交流を通して Serendipity（偶然の出会いや発見）を生みたいという思いで、補助金等を活用し、元病院のホテルの１階部分をコワーキングスペースとして改修して開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・カフェ
・キッズスペース
・HafH（定額で全国のホテルや旅館に泊まれるサービス）と共同運営の滞在部屋
・短期滞在用客室
・居酒屋

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ
・企業や団体の会議／研修
・地域住民向けの講座
・学生の自習

【集客手法】
・利用者の口コミ
・五島市のワーケーションサイト
・近隣の学生（高校生の放課後利用なども多い）

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・運営者の岡本さんが五島市のワーケーション企画のコネクター補助（ワーケーション利用者と地元民をつなぐ役割）を行っている
・地元民も多く利用しており、自然とワーケーション利用者と混じり合う場となっている
・雨の日の滞在場所の選定が課題

長崎エリア③：ＳＰＡＣＥＬｏｎｇＡｒｍｓ（スペースロングアームス）　※写真は視察時に撮影

担当者	浦 環　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	1時間200円（島民） 1時間300円（一般）
	会員	4,000円 / 月（島民） 6,000円 / 月（一般）
席数	～20席	
設備・サービス	貸切、PCモニター	
特徴	海が見えるコワーキングスペース、ワーケーションにおすすめ、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　海が見える場所、魚が美味しい場所に住みたいと思い、都会からのアクセスの良さから五島に移住（現在、二拠点生活）、地域の人たちで集まる場所がなく、気楽に集まれる場所を作りたいという思いから、漁協をリノベーションしてコワーキングスペースを開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・イベントスペース

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・上映会、ライブ
・企業や団体の会議／研修

【集客手法】
・五島市のワーケーションサイト
・長崎県のワーケーションサイト
・ＳＮＳ

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・貸切利用ができ、景観も良いため、企業などのワーケーション合宿に対応できる
・ワーケーションに際し、宿泊と飲食ができる場所が近くにないのが課題

長崎エリア④：Ｓｏｒｒｉｓｏｒｉｓｏ　千綿第三瀬戸米倉庫（ソリッソ リッソ千綿第三瀬戸米倉庫）　※写真はTeamPlace掲載ページ(https://team-place.com/space/590)より引用

担当者	森 一峻　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	無料
	会員	なし
席数	～20席	
設備・サービス	貸切	
特徴	移住相談ができる、創業相談ができる、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　地元の良さを発信し、東彼杵を盛り上げたい、創業支援や商品開発を行える地域の拠点を作りたいという思いで解体予定だった農協の米倉庫を借り、リノベーションして開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・文化観光交流拠点
・地域住民の相談／交流拠点
・カフェ

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・移住相談
・起業／創業相談
・観光時の休憩

【集客手法】
・利用者の口コミ
・通りすがり

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・動機がないと移住者は増えないため、営み（経営者）を先に作る（集める＜集まる）
・「価値づくり」から「営みづくり」そして「まちづくり」へという考えのもと、地域の価値を高め、発信していく活動を行っている（創業相談・ローカルメディアの運営）

長崎エリア⑤：ｃｏｔｏ（コト）　※写真はTeamPlace掲載ページ（https://team-place.com/space/936)より引用

担当者	谷本 雅章　さん（コミュニティマネージャー）	
利用料	ドロップイン	1日1,500円
	会員	11,000円 / 月（県民） 5,500円 / 月（県外在住者）
席数	～20席	
設備・サービス	会議室、フォンブース、登記	
特徴	海が見えるコワーキングスペース、ワーケーションにおすすめ、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　仕事のつながりを創れる場所、長崎・大村湾エリアのハブ拠点となる場所を作りたいという思いで、補助金等を活用して商店街の組織が運営していたまちかど休憩室というコミュニティスペースを改修して開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・シェアオフィス
・カフェ

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・マルシェ
・カフェ利用

【集客】
・インターネット検索
・イベント
・ＳＮＳ
・利用者や知人の口コミ

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・行政の委託ではなく、自主事業としてワーケーションの企画／運営を実施（３回実施）
・地元経営者の講演会を開催し、プロジェクトや連携が生まれやすい仕掛け作っている
・他拠点居住を考えている大企業や、中小企業の経営者をターゲットにしている
・出張で来るような用事を作ってもらい、地域で仕事をしてもらう機会を増やす仕組みを作る

長野エリア①：Ｇｏｋａｌａｂ．（ゴカラボ）　※写真は施設ホームページ(https://gokalab.jp/)より引用

担当者	金 久美　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	無料 ※カフェでのワンオーダーが必要
	会員	3,400円 / 月
席数	21～40席	
設備・サービス	会議室、フォンブース、シェアキッチン、キッズスペース	
特徴	会員はワークショップ後に研究員として登録、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　避暑地・別荘地である軽井沢に隣接している御代田町は移住者が急増している地域で、移住者の方から「地域に仕事をするスペースが少ない」という課題を聞いたことを発端に、単に仕事をするだけの場ではなく「はたらくが広がる研究所」にしたいと考え、補助金等を活用し、農協の建物を借りてリノベーションして開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・ギャラリー
・カフェ
・シェアキッチン

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ
・カフェ利用

【集客】
・利用者や知人の口コミ

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・教育移住が多いため、子どもの勉強場所の提供、子ども向けのワークショップの開催を行う
・キャリアやスキルを持って移住してくる層が多く、仕事を渡すのではなく、はたらくが広がる仕掛けを作る（研究員の制度）
・ワーケーションに際し、近隣に宿泊施設がないことが課題

長野エリア②：ワークテラス佐久　※写真は施設ホームページ（https://www.3saku.com/）より引用

担当者	柳澤 拓道　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	3時間500円
	会員	個人会員：5,000円～ / 月 法人会員：25,000円～ / 月 オフィス会員：25,000円～ / 月
席数	61～80席	
設備・サービス	会議室、集中ルーム、登記（日常的にオフィスとして利用される方のみ）	
特徴	地元企業やフリーランスの共創事例多数、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　新幹線で東京から１時間半の距離にあり、移住者が多い佐久エリアの特徴を活かし、テレワークや複業推進を通じて地域との結びつきを生み出す拠点を作ることを目的に、自主事業を実施する完全民間のまちづくり会社を３年以内に設立し、指定管理業務を引き継ぐことを視野に、ジェイアール東日本企画を指定管理者として地域の情報センターを改修して開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・シェアオフィス

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ
・起業／創業相談

【集客】
・ＳＮＳ

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・移住者の多くが「地域の仕事に関わりたい」という思いを持っていることから、地域副業によるローカルシフトを実践
・地域を知り、自分を知る、個人参加の内省型コワーケーション合宿を実施（７名参加のうち４名移住）
・移住者や二拠点居住者に対し、地域の仕事の割合をどのように増やしていくかが課題

長野エリア③：ＴＥＲＭＩＮＡＬ　５１°（ターミナル ゴーイチ）　※写真は視察時に撮影

担当者	水島 康明　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	3時間550円
	会員	フリー席：10,000円 / 月 固定席：16,500円 / 月 法人会員：33,000円 / 月
席数	41～60席	
設備・サービス	会議室、フォンブース、シェアキッチン、作業室、登記	
特徴	無人運営、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　フリーランスや移住者、他拠点ワーカーや副業を実践する人の働く場所の選択肢を増やし、ソーシャルビジネスの機会へと繋げるため、「THE CO-WORKING TERMINAL 働き学ぶ人のための日々の経由地」をコンセプトに紙問屋の事務所をリノベーションして開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・シェアオフィス
・シェアキッチン

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ

【集客】
・ＳＮＳ
・利用者や知人の口コミ
・クラウドファンディング

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・信濃町のキャンプ場と提携
・働き方改革の取り組みとしてＡＢＷ（＝Activity Based Working：ワーカーが作業内容や気分に合わせて働く時間と場所を自由に選ぶことができ、生産性と創造性の向上が期待できる働き方）の導入

長野エリア④：ＣＲＥＥＫＳ（クリークス）　※写真は TeamPlace 掲載ページ（https://team-place.com/space/19）より引用

担当者	古後　理栄　さん（スペース運営者）	
利用料	ドロップイン	1日1,100円
	会員	フリー席：13,200円～ / 月 固定席：33,000円～/ 月
席数	21～40席	
設備・サービス	会議室、シェアキッチン、登記	
特徴	移住相談ができる、創業相談ができる、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　当時シェアオフィスを運営していたが、仕事を創り出せる場、人の繋がりが創れる場としてコワーキングスペースを作りたいと思い、オリンピック需要後の空家活用の一環で、貴金属店のビルをリノベーションし、開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・イベントスペース
・シェアキッチン

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ
・起業／創業相談
・学生の自習

【集客】
・ＳＮＳ
・ポータルサイトへの掲載
・利用者や知人の口コミ
・近隣の学校（高校生や大学生の放課後利用やワークショップ利用も多い）

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
「起業・就労」
・コワーキング活用型起業支援人材育成事業
・クラウドファンディング活用によるビジネス創出支援事業
・ＩＴ活用による新たな働き方（非雇用型テレワーク）普及事業
「教育・子育て」
・若者未来創造スペース整備事業
「移住・中山間地」
・自然の中の暮らし魅力創造発信事業における拠点施設整備業務
・おためしナガノ運営業務

長野エリア⑤、⑥：いいづなコネクトWEST、いいづなコネクトEAST　※写真は施設ホームページ（https://iizuna.jp/）より引用

担当者	増川　千晶さん（コミュニティマネージャー）	
利用料	ドロップイン	1時間200円
	会員	8,000円 / 月
席数	～20席	
設備・サービス	会議室、シェアキッチン、ラボ、登記	
特徴	利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　閉校となった小学校２校の跡地の整備事業として、町内の人や事業者と都市部の人や事業者の交流や連携の創出を目的として複合施設として開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・イベントスペース
・シェアキッチン
・グラウンド／体育館
・宿泊施設

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・シェアオフィス
・イベント／ワークショップ
・起業／創業相談
・合宿
・部活動

【集客】
・知人や利用者、地域住民の口コミ

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・いいづな「いきがい創造」プロジェクト事業に係るワーケーション構築事業
・飯綱町のリゾートテレワークの体験会
・アイデアソンイベントやスキルアップ講座の開催

長野エリア⑦：ふるさと交流館　芦田宿　※写真は TeamPlace 掲載ページ（https://team-place.com/space/655）より引用

担当者	上前 知洋　さん（立科町職員）	
利用料	ドロップイン	無料
	会員	設定なし
席数	～20席	
設備・サービス	シェアキッチン	
特徴	貸切可、移住相談ができる、利用者同士の交流を推奨	

【開設の経緯】
　地方創生加速化交付金使用して移住相談の窓口を作ろうと思ったことをきっかけに、広く地域住民のサードプレイスとなる拠点として整備したいと考え、元金融機関を改修して交流拠点として開設

【スペースの機能】
・交流スペース
・イベントスペース
・シェアキッチン

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ

【集客】
・知人や利用者、地域住民の口コミ

【移住／ワーケーション／創業支援の取り組みについて】
・U/Ｉターン希望者が望む職種とのギャップ（一次産業二次産業しかない）を埋める取り組みとして、雇用創出型テレワーク事業の開始
・企業合宿型ワーケーション「立科 WORK TRIP」の推進

長野エリア⑧：いこいヴィラ　※写真は視察時に撮影

担当者	受付スタッフ	
利用料	ドロップイン	4時間1,000円
	会員	15,000円 / 月
席数	41～60席	
設備・サービス	会議室、登記	
特徴	貸切可	

【開設の経緯】

地元や県外、宿泊のお客様まで色々な目的を持って集まった方々と交流し、新しい価値を生み出してゆくコミュニティスペースとしてホテル１階に開設

【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・イベントスペース

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ
・合宿

【集客】
・知人や利用者、地域住民の口コミ
・ホテル利用者

長野エリア⑨：軽井沢プリンス　ザ　ワーケーションコア　※写真は視察時に撮影

担当者	受付スタッフ	
利用料	ドロップイン	15分275円 1日5,500円
	会員	ドロップインと同じ
席数	61～80席	
設備・サービス	会議室、フォンブース	
特徴	貸切可	

【開設の経緯】
　軽井沢・プリンスショッピングプラザ（西武グループが運営）内で、新幹線の待ち時間やホテルのチェックイン前など、短い時間でも気軽にご利用いただけるよう、西武グループと、サテライト型シェアオフィス事業「H¹T」を展開する野村不動産、シェアオフィス事業「STATION WORK」を展開するＪＲ東日本の３社が、ワーケーション施設として開設
【スペースの機能】
・コワーキングスペース
・イベントスペース

【スペースの主な用途】
・コワーキング
・イベント／ワークショップ
・休憩

【集客】
・ホームページ
・「H¹T」ページ
・「STATION WORK」ページ
・軽井沢・プリンスショッピングプラザ利用者

考察
　今回の視察を通して、本施設の参考になりうるコワーキングスペース等の、施設や設備といったハード面だけでなく、運営者の思いや開設の経緯、スペースの地域への貢献価値（雇用創出、創業、共創、移住相談の拠点）といったソフト面の重要性についても多数の知見を得ることができた。特に、今回視察した地域のコワーキングでは、施設や設備を充実させるよりも、地域に雇用や仕事を創出するための仕組みづくり、人を呼ぶ仕組みづくりを優先させるべきという場所が多く、それは「フリーランスがもっとも働きやすい島化計画」を推進する本市においても同様であると考える。

６　市内でのワーケーションに関する調査研究

6-1　実施目的

本施設を中心とした市内ワーケーション施設の利便性向上のため、市内のワーケーションに資する施設、国、鹿児島県、その他近隣地域が行う施策等、先進的な取り組みを行う地域に関し、オンライン調査、ヒアリング調査を行い、奄美市のワーケーション施策に有効な知見を得ることを目的とする。

6-2　調査項目

・市内のワーケーションに資する施設の調査
　（１）奄美のワーケーション施設一覧（提供：株式会社しーま）
　（２）市内ホテルへのヒアリング調査
・移住／ワーケーション先進地域／団体へのヒアリング調査
　（１）五島市
　（２）西海クリエイティブカンパニー
　（３）ＮＰＯ法人雪浦あんばんね
　（４）立科町
・国や県の行う施策に関する調査
　・コワーキングスペース協会
　・鹿児島県

6-3　調査結果概要と考察

6-3-1　市内のワーケーションに資する施設の調査

（1）奄美のワーケーション施設一覧

奄美のワーケーション施設（ホテル、カフェ等飲食スペース、民泊等）

No.	エリア	施設タイプ	名称	詳細	備品
1	名瀬	宿泊施設（ホステル）とカフェバー	en- amami	建物内の中二階にワークスペース。 1階のカフェバーもMTGができるスポットあり。	Wi-Fi、電源、プロジェクター、ホワイトボードシート、スマホ充電器など
2	名瀬	ビアホール兼テレワークスペース	AMAMI BEER HALL	ビール工場に併設したビアホールにて、9:00~17:00にテレワーク＆カフェタイムを設けている。	Wi-Fi、電源、プリンタ複合機、ラミネート機、事務用品
3	名瀬	ホテル	奄美山羊島ホテル	全室Wi-Fi対応。大浴場・サウナもありマッサージルーム完備（要予約）	Wi-Fi、電源、ヘルスメーター、リクライニングチェア
4	名瀬	ゲストハウス	ゲストハウス奄美ロングビーチⅡ	全室Wi-Fi対応。夕陽の絶景ポイント「大浜海浜公園」の近く。	Wi-Fi、電源
5	名瀬	ゲストハウス	GOLDEN MILE HOSTEL	1階のエントランス兼ラウンジスペースにてWi-Fi完備。	Wi-Fi、電源
6	名瀬	シェアオフィス	Amamin' Base	１週間以内から利用可能な、港湾倉庫をコンバージョンしたシェアオフィス。	Wi-Fi、電源、収納棚、ドリンク
7	名瀬	カフェ	サンドイッチカフェ奄美	（参照記事は古いですが）Wi-Fiが使えるので、仕事で利用する方も多いカフェ。	Wi-Fi
8	名瀬	観光交流センター	奄美市AiAiひろば	フリーWiFiが利用可能。観光案内所を併設し、休憩所や会議室、キッズコーナー、パソコンコーナーなどもある。	Wi-Fi
9	名瀬	ファミリーレストラン	ジョイフル	空港店を含め奄美に5店舗あり、いずれの店舗でもフリーWiFiが利用可能。	Wi-Fi
10	名瀬	ゲストハウス	【millionpointz】ミリオンポインツ	Wi-Fi完備。一日一組限定の貸切ゲストハウス。	Wi-Fi、電源
11	笠利町	テラス付ヴィラ	GOLDEN MILE VILLA(ゴールデンマイルヴィラ)	Wi-Fi対応。ビーチ沿いの貸別荘 テラス付ヴィラ。	Wi-Fi、電源
12	笠利町	ゲストハウス	AMA TERRACE（アマテラス）	全館完全個室で全室Wi-Fi対応。	Wi-Fi、電源
13	笠利町	ゲストハウス／ホテル／ヴィラ／一棟貸し宿	伝泊	全室Wi-Fi対応。スタイルの異なる4種類の宿タイプがある。	Wi-Fi、電源
14	笠利町	観光案内所兼カフェ	MISHORAN CAFE	室内はWi-Fiと電源あり。iPhone充電器・Type-C充電器の貸し出しも。	Wi-Fi、電源
15	笠利町	コワーキングスペース／インキュベーション施設	ICTプラザ かさり	空き室のインキュベートルームをコワーキングスペースとして一般開放。	Wi-Fi、電源、ディスプレイ、ホワイトボート、打ち合わせスペース
16	笠利町	コンドミニアム	ブルーライト奄美 ～Blue Light Amami～	全室Wi-Fi対応。【リトリート】【メディテーション】【ワーケーション】を推奨していて、テレビや時計の設置無し。	Wi-Fi、電源
17	笠利町	一棟貸しヴィラ	SHINMINKA Villa UTTABARU	Wi-Fi対応。建築家によりデザインされた新民家VILLA。	Wi-Fi、電源
18	笠利町	グランピング／ゲストハウス	HOLLY CAMP	Wi-Fi完備。1日1組限定の宿でエアストリームによるグランピングと、カフェと併設した2部屋のみの宿。	Wi-Fi、電源
19	龍郷町	ホテル	ホテルカレッタ	全室Wi-Fi対応。プールサイドやカフェスペースでも作業可能。	Wi-Fi、電源
20	龍郷町	トレーラーハウス	Le GRAND BLEU（ル グランブルー）	Wi-Fi完備。ウッドデッキで作業ができる。	Wi-Fi、電源
21	龍郷町	一棟貸しヴィラ	a bee coco	Wi-Fi完備。ワーケーションを推奨している宿泊施設。	Wi-Fi、電源
22	龍郷町	グランピング施設	isola base amami	無料Wi-Fi完備。エアストリームとドームテントのグランピング施設で、ワーケーションを推奨している。	Wi-Fi、電源
23	瀬戸内町	ウェルネスリゾートホテル	THE SCENE	全室Wi-Fi対応。仕事だけじゃなくウェルネス体験も可能なホテル。	Wi-Fi、電源
24	瀬戸内町	コワーキングスペース	すこやか福祉センターHUB	1日単位、サブスクリプション、スペース貸切(17時以降)で利用できるコワーキングスペース	Wi-Fi、電源、大型モニター、ウェブカメラ、卓上スピーカーフォン、モバイルWi-fi、スマホ充電器、プリンター、ロッカー、スマートロック、無料コーヒーなど

（２）特徴的な市内ワーケーション施設へのヒアリング調査
【ヒアリング先】
・奄美山羊島ホテル
・ばしゃ山村
・伝泊
・en- Hostel & Café bar
・AMAMI BEER HALL

【ワーケーションに関する取り組み】
・Wi-Fi の整備
・共有スペース（ロビー、カフェ、レストランなど）の開放
・アクティビティプランの紹介

【自治体への要望】
・島内でワーケーションに取り組む施設の横のつながりを創出する場の企画
・市との意見交換の場の企画
・ワーケーションＭＡＰ作成など、施設の取り組みの可視化と利用者へのＰＲ
・世界遺産化してから土地の切り売りが進んでいることへの対策
・地域住民にとってもメリットがあるような施策の検討
・地域住民との交流（前提としてその土地への理解が必要）
・奄美の文化への理解を深めてもらうきっかけ作り
・雨の日や日曜日の過ごし方の提案

6-3-2　移住／ワーケーション先進地域へのヒアリング調査
（１）五島市
【取り組み】
リモートワークを推進することで移住に繋げられないかという発端でワーケーションを開始
業務委託にて実施(「一般社団法人みつめる旅」が受託)
・２０１９年：実証実験（キャンプ場で開催、共同部屋、保育園受入）
・２０２０年：五島ワーケーションチャレンジ（移住定住へ繋げるための関係人口創出事業、
　　あえて冬に開催、自主的に参加、交流が中心、地元の懇親会に参加など）
・２０２１年：島ぐらしワーケーションｉｎ五島（ふるさと納税が使える）
・コロナ禍での移住増
・２０２３年：生産性だけじゃないワーケーション（余白を楽しむワーケーション）を検討

【ワーケーションに関する強み】
・訪れる人、受け入れる人の双方にメリットがある仕組み
・地元の人のワーケーションに対する認知・協力度合いが高い
・市民のコネクター人材（地元のコミュニティマネージャー）の存在

【ワーケーションの集客について】
・一般社団法人みつめる旅（https://mitsutabi.jp/）に委託
・リピーター
・口コミ
・ＳＮＳ
・媒体掲載
・インターネット検索

（２）西海クリエイティブカンパニー
【取り組み】
・２０１７年西海市役所と銀行の出資を得て地域商社を設立

・ブランディング／商品開発／フリーペーパー運営／人材育成事業／アプリ開発などを行う

【移住に関する強み】
・育成（インプット）だけでなくアウトプット（仕事の発注）も行っていく
・地域の人材と事業のハブになる存在がいる

（３）ＮＰＯ法人雪浦あんばんね
【取り組み】
・都市部と農村部の交流促進を目的として２０１３年より「雪浦ウィーク」（雪浦地区で開催されるゴールデンウィークの恒例イベントで、自宅や工房が開放され、まちを歩きながら雪浦の自然や地域の人々との交流が楽しめる）を実施
・総務省過疎集落自立支援事業で「コミュニティカフェゆきや」開設
・交流人口を増やすには滞在施設をと思い「ゲストハウス森田屋」開設

【移住に関する強み】
・子育て、第二の人生など、田舎暮らしを求める移住の相談に対応
・地域に溶け込むためのハブとなる人材がいる

（４）ふるさと交流館　芦田宿
【取り組み】
・「雇用創出型テレワーク」を実施し、人材育成、働く場所の整備、仕事の受注～納品を行うことで、地域人材やＵＩターン希望者への仕事の創出を継続し、地域内に自律型人材が育成されている状態を目指す
・企業合宿型ワーケーション「立科 WORKTRIP」を実施、買い手よし（人手の確保、コア業務時間の確保）、売り手よし（法人契約の確保、平日の稼働確保）、世間良し（新規事業の受注）の三方よしを実現

【ワーケーションに関する強み】
・企業の決裁を取りやすい仕事重視型のワーケーション
・企業の担当者にとって専門外の部分を委託できるコンシェルジュの存在（専任のコンシェルジュに、工程の検討から宿泊場所の提案、ワークスペースの備品の手配などの業務を全て委託できる）

【移住に関する強み】
・仕事がある
・地域に溶け込むための交流拠点がある

6-3-3　国や県の行う施策に関する調査
（１）日本ワーケーション協会の取り組み
・ワーケーションなどを中心としたライフスタイルやワークスタイルに関係するようなイベントの主催や協力、後援
・各地での講演活動やアドバイザリー
・自治体やＤＭＯからの相談
・ワークショップの開催
・モニターツアーの補助
・情報発信やコミュニティの運営、
・場所を変えて豊かに暮らし働くライフスタイルを共創する「公認ワーケーションコンシェルジュ」の任命
（２）鹿児島県の取り組み
・スタートアップ支援施策の一つとして、スタートアップの多く集まるコワーキングスペースの運営の方々を集めて情報共有と連携を目的として「カゴシマ・コワークコネクトセミ

ナー」を開催、次年度以降も継続して行っていきたい（鹿児島県商工労働水産部新産業創出室）

・「かごしまワーケーション推進拠点整備支援事業」として上限３５０万円の補助金を設定（Ｒ４年度）、民間事業者等が県内にワーケーション実施の拠点を整備する際に係る経費の助成を行った（鹿児島県商工労働水産部産業人材確保・移住促進課移住促進係）

考察

市内のワーケーションに資する施設への調査では、Wi-Fi や電源を備えた施設は多くあるものの、Wi-Fi の強度や会議用スペースの整備、ＰＣ周辺機器の貸出などの点で、テレワークやリモートワークの基準を必ずしも満たしているとは言えない状況であることが分かった。また、ヒアリングした施設からは「島内でワーケーションに取り組む施設の横のつながり」「市との意見交換の場」「ワーケーションＭＡＰを作成するなどの周知啓発」へのニーズが伺えた。また、国や県の取り組みとしては、引き続きワーケーションの推進やモデルツアーの催行などの意向が伺えた。

移住／ワーケーション先進地域へのヒアリング調査では、それぞれの地域が、個人向けの余白を楽しむワーケーションや、企業の研修や合宿に特化したワーケーションなど、独自の強みと取り組みを持っていることが分かった。本市においては過去のワーケーションに関する調査で企業向けのワーケーションを軸に奄美市らしいワーケーションに関する考察を行なっていたが、企業のワーケーションへの理解がまだそれほど高まっていない現状と、奄美の観光地としてのポテンシャルを考えると、休暇型かつ個人向け（個人事業主・フリーランス・多拠点居住者・インバウンド）のワーケーションが向いているのではないかと考えられる。

出典：観光庁「新たな旅のスタイル」ホームページ
（https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure/）

７　キャッシュレス決済導入調査

7-1　実施目的

本施設の利便性向上のため、現行の現金のみの施設使用料の支払い方法のキャッシュレス化を検討するにあたり、他のコワーキングスペース運営者へのキャッシュレス決済システムの導入状況に関するアンケート調査、複数のキャッシュレス決済システムの比較調査、本施設の管理運営者へのヒアリング調査を行い、最適な決済システムを検討することを目的とする。

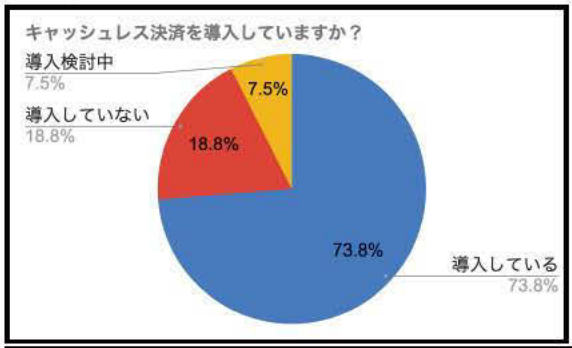
7-2　調査手法

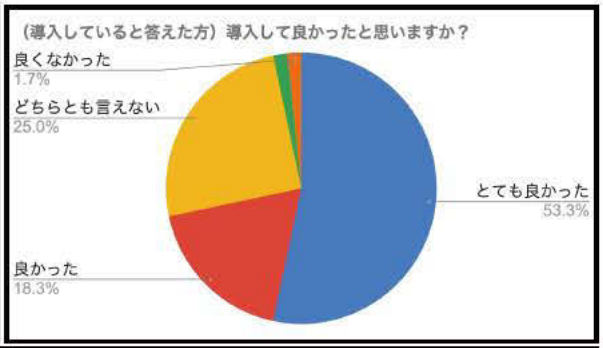
・他のコワーキングスペース運営者へアンケート調査
・オンライン調査（複数のキャッシュレス決済システムの比較）
・本施設の管理運営者へのヒアリング調査

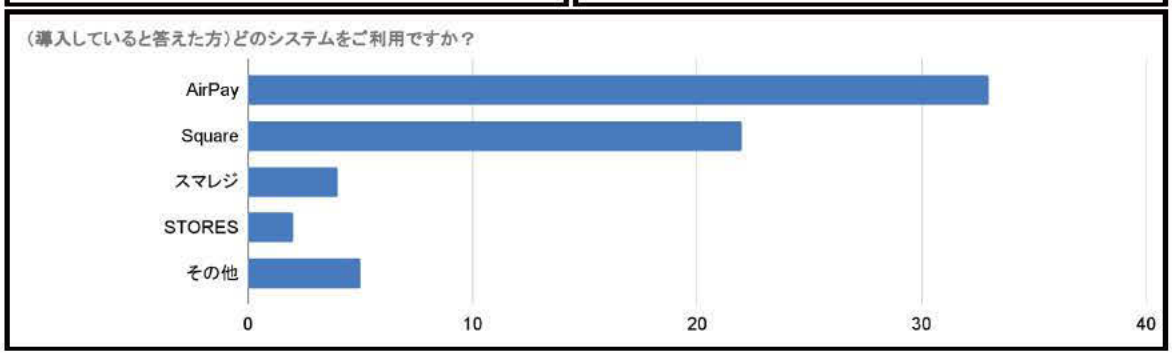
7-3　調査結果概要と考察

7-3-1　他のコワーキングスペース運営者へアンケート調査

調査対象：コワーキングスペースの運営者（ｎ＝８０）
調査期間：令和５年３月１０日（金）～令和５年３月２４日（金）







7-3-2　オンライン調査（複数のキャッシュレス決済システムの比較）

費用についての比較

サービス名	初期費用	月額費用	決済手数料	振込手数料	入金サイクル
AirPay	0円	0円	3.24%~	0円	みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行の振込口座が月6回、その他金融機関は月3回
Square決済	リーダー ：4,980円 スタンド ：29,980円 ターミナル ：46,980円	0円	3.25%~	0円	最短翌営業日
STORES決済	19,800円 180日以内に10万円達成で無料	0円	1.98%~	手動入金：売上合計10万円以上は無料、売上合計10万円未満⇒200円 自動入金：無料	手動入金：毎日の売上が翌日6:00から振込依頼が可能、依頼から1～2営業日で入金 自動入金：月末締め、翌月20日入金
スマレジ・PAYGATE	30,800円	3,300円	3.24%~	加盟店負担（金融機関により異なる）	クレジット/電子マネー売上:末締め翌15日払い/15日締め当月末払いの2回 QRコード決済売上:当月末締め翌月末払い

利用できる決済サービスについての比較

サービス名	クレジットカード	電子マネー	QRコード
AirPay	VISA、mastercard、AMERICAN EXPRESS、JCB、Diners Club、DISCOVER、UnionPay	交通系ICカード、iD、Qucik Pay	d払い、PayPay、auPay、楽天Pay、JCoin、SmartCode、WeChatPay、UnionPay、ALIPay、Coin +
Square決済	VISA、mastercard、AMERICAN EXPRESS、JCB、Diners Club、DISCOVER	交通系ICカード、iD、Qucik Pay	PayPay
STORES決済	VISA、mastercard、AMERICAN EXPRESS、JCB、Diners Club、DISCOVER	交通系ICカード	WeChatPay
スマレジ・PAYGATE	VISA、mastercard、AMERICAN EXPRESS、JCB、Diners Club、DISCOVER、UnionPay	交通系ICカード、iD、Qucik Pay、WAON、nanaco、楽天Edy	d払い、PayPay、auPay、楽天Pay、WeChatPay、A LIPay、メルペイ、LINE Pay

システムエラー発生時の対応についての比較

サービス名	システムエラー発生時の対応
AirPay	エラーメッセージごとの原因と対処法を記載したFAQあり、それでも解決しない場合ヘルプデスクまで問い合わせ
Square決済	トラブル解決ガイドに基本的な対処法の記載あり、それでも解決しない場合、Squareサポートに問い合わせ
STORES決済	トラブルシューティングのFAQあり、それでも解決しない場合、加盟店向け問い合わせフォームより問い合わせ
スマレジ・PAYGATE	エラーメッセージごとの原因と対処法を記載したエラーコード一覧あり、それでも解決しない場合カスタマーサポートまで問い合わせ

7-3-3　本施設の管理運営者へのヒアリング調査

【本施設での課題】
・現金のみの決済では利用者の利便性が良くない
・領収書の発行がＡ４サイズとなっており、不便

【島内でのキャッシュレス決済の現状】
・キャッシュレス決済自体は浸透しているが、ＱＲコード決済などの新しい決済方法はまだそれほど浸透していない
・ｄ払いが多い印象

・本施設の管理運営者の運営するカフェでは利用者の５～６割がキャッシュレス決済を利用

【オペレーション】
・請求書払いに対応できる必要がある
・領収書の発行は必須
・決済端末を自前で用意が必要な場合、iPad 等は購入の必要がある

考察

「7-3-1　他のコワーキングスペース運営者へアンケート調査」によると、キャッシュレス決済を「導入している」と回答したスペースは７割を超え、「導入していない」と回答した３割弱のうち、「導入検討中」と回答したスペースは１割弱あった。また、導入していると答えた方への「導入して良かったと思いますか？」とのアンケートでは、７割が良かったと回答、そのうち、「とても良かった」と回答したスペースは５割を超えていた。また、「良くなかった」「あまり良くなかった」と回答したスペースはそれぞれ１件ずつで、キャッシュレス決済への満足度の高さが伺えた。また、キャッシュレス決済を「導入している」と回答した５９件のうち、「AirPay」を利用していると回答したスペースは３３件と半数を超え、次いで「Square」が２２件であった。

「7-3-2　オンライン調査（複数のキャッシュレス決済システムの比較）」によると、費用や決済に利用できるサービスの種類の面で、それぞれ長所・短所があることが分かったが、奄美市で浸透している「ｄ払い」が利用できるシステムは「AirPay」と「スマレジ・PAYGATE」のみであった。この二つのシステムで初期費用、月額費用、振込手数料を比較すると「AirPay」が望ましいのではないかと考える。

８　今後の方向性

8-1　調査結果まとめ

本施設の持続可能な管理運営に関する調査として実施した「コワーキングスペースの管理運営を行う事業者等へのアンケート」「コワーキングスペースの管理運営に関する有識者による座談会」「本施設の管理運営の参考となる地域への現地視察」では、他のコワーキングスペースがどのような設備を備えているのか、また施設をどのように管理運営しているのかについて知見を得るとともに、スペース運営者の思いやスペース開設の経緯、スペースの地域への貢献価値についても知ることができた。

そのような中で、平成27年度に「フリーランスが最も働きやすい島化計画」を　策定し、ＩＣＴを活用するフリーランス、小規模事業者等を中心に「多様な働き方」の推進を進める奄美市におけるコワーキングスペースの地域への貢献価値は、単なる「働く場所」の提供ではなく、「フリーランスや地元事業者の共創の場」や「起業／創業の相談ができる場所」、「地域住民や若者が気軽に集える交流拠点」として、地域内外の人材を巻き込みながら奄美市の稼ぐ力の向上と、地域の人・コトの魅力の発信を行なっていくことであると考える。

本施設を中心とした市内ワーケーション施設の利便性向上のための調査として実施した「市内のワーケーションに資する施設に対しての調査」「市内のワーケーションに資する特徴的な施設に対してのヒアリング調査」「国、鹿児島県、その他近隣地域が行う施策等に関するヒアリング調査」「ワーケーションに関して先進的な取り組みを行う地域の現地調査」では、奄美市内の事業者のワーケーションに対する認識や取り組み、ワーケーションを推進するにあたっての要望について、また国や県、ワーケーションの先進地域がどのような取り組みを行なっているのかについて知見を得ることができ、奄美市を取り巻くワーケーションの現状について把握することができた。

今後、奄美市がワーケーションを推進していくにあたりどのような実施形態が適しているのかに関して、奄美市においては過去のワーケーションに関する調査で企業向けのワーケーションを軸に奄美市らしいワーケーションに関する考察を行なっていたが、企業のワーケーションへの理解がまだそれほど高まっていない現状と、奄美の観光地としてのポテンシャルを考えると、休暇型かつ個人向け（個人事業主・フリーランス・多拠点居住者・インバウンド）のワーケーションが向いているのではないかと考えられる。

休暇型のワーケーションに関しては、観光関連部署と連携しながら島内の宿泊施設やワーキングスポットの整備や連携に関する支援を行なっていく必要があり、とりわけ、今回の調査でも要望のあった「テレワークに適したWi-Fiの整備」「島内でワーケーションに取り組む施設の横のつながり」「市との意見交換の場」「ワーケーションＭＡＰを作成するなどの周知啓発」の実施は重要である。

キャッシュレス決済導入に向けた調査として実施した「他のコワーキングスペース運営者へのキャッシュレス決済システムの導入状況に関するアンケート」「複数のキャッシュレス決済システムの比較」「本施設の管理運営を行うものへのヒアリング調査」では、コワーキングスペースにおけるキャッシュレス決済の必要性が再認識できた。

なお、本施設に対し最適なキャッシュレス決済システムに関しては、奄美市で浸透している「ｄ払い」が利用できる点、初期費用、月額費用、振込手数料の点で「AirPay」が望ましいのではないかと考える。

8-2　今後の方向性・検討事項

（1）本施設の利用者層の再定義と利用者数向上のための企画の検討

本施設が「フリーランスや地元事業者の共創の場」や「起業／創業の相談ができる場所」、「地域住民や若者が気軽に集える交流拠点」として、地域内外の人材を巻き込みながら奄美市の稼ぐ力の向上と、地域の人・コトの魅力の発信を行なっていくために、以下の企画を検討する。

- 島内の働く拠点の連携
  - ＩＣＴプラザかさりや市内のコワーキングスペースと連携した相互送客の仕組みづくり
- 起業／創業を考える人やフリーランス、小規模事業者との連携
  - 起業／創業を考える人やフリーランス、小規模事業者の交流の場の創出
  - 若者に向けた働き方に関するイベントの企画
- 本施設および奄美市の注目度向上のためのイベントの開催
  - 地域内外の訴求力のあるインフルエンサーを集めた、新しい働き方やライフスタイルに関し啓発するイベントの企画

（2）ワーケーションにおける他の地域との差別化

行政の「働き方改革」やコロナ禍により、テレワークやリモートワークが普及してきた中で、旅行や観光に対するユーザーニーズも単なる休暇（Vacation）から、仕事（Work）をできる環境での休暇へと変わってきた。そのような中で観光が主力産業の一つとなっている奄美市において、今後観光地としても優位性を保ち続けるために、「働きながら休暇ができる」「休暇の合間に仕事ができる」環境の整備が必須であると考え、以下の企画を検討する。

- 宿泊施設等へのワーケーション対応に対する補助の実施
  - 宿泊施設等のテレワーク環境の整備
- ワーケーションに資する施設の横のつながりの強化
  - 親子ワーケーションや五島市の事例を元にした勉強会の開催
  - 一般社団法人あまみ大島観光物産連盟と連携した意見交換会の開催
- 島内事業者の相互送客
  - ワーケーションマップの取りまとめ
  - 商店街アプリとの連携

（3）キャッシュレス決済システム導入

近年、ＱＲコード決済をはじめとしたキャッシュレス決済が大幅に普及し、現金を持ち歩かずに生活する人たちも増えてきた。コワーキングスペースのターゲットとなる、働く場所を自由に選択できる層においてもその傾向は強く、本施設の利便性向上のためには、現行の現金のみの施設使用料の支払い方法のキャッシュレス化を行う必要がある。

なお、本施設に対し最適なキャッシュレス決済システムに関しては、奄美市で浸透している「ｄ払い」が利用できる点、初期費用、月額費用、振込手数料の点で「AirPay」が望ましいのではないかと考え、今後は「キャッシュレス決済システムに関する具体的なプロセスの検討」と「キャッシュレス決済システムの導入の実施」を行なっていく。

奄美市 WorkStyle Lab 調査研究事業
調査結果報告書
令和５年３月

実施主体／奄美市商工観光情報部商工政策課
〒８９４－８５５５　奄美市名瀬幸町２５－８
E-mail：work@city.amami.lg.jp

調査機関／株式会社ＡｎｙＷｈｅｒｅ
〒１８０－０００６　東京都武蔵野市中町１－２４－８
E-mail：gov@anywhere.co.jp